



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 22

(2022年12月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

そうしじょ 繰糸所に残る不思議な扉

繰糸所に入ってすぐ右上壁面を見ると、木の扉があります。人が出入りするには難しい位置になぜかある扉、不思議に思いませんか。

1873（明治6）年頃に編纂された『富岡製糸場記 全』から「繰糸所の東西入口に階段があり、中段北にある扉を開ければ置繭所2階に通ずる梯かけはしに出る」や「置繭所の2階の南、ベランダから梯を繰糸所に通して繭を搬送する」といった内容が確認できます。つまり、創業時には東西の置繭所から繰糸所に繭を運び入れるための渡り廊下が架けられ、この扉は繰糸所側の出入り口として設置されたことがわかります。

しかし、後に繭を置繭所から直接運び入れなくなると作業動線が変化し、この渡り廊下は撤去されたようです。同様に繰糸所の東側入口の階段も撤去されたため、繰糸所の壁面に扉だけが残されるという不思議な状況になってしまいました。

東置繭所と繰糸所の間ひがしおきまゆじょに架けられた渡り廊下については、繰糸所入口に設置された解説板の古写真からも確認できます。建設途中の写真で、東置繭所に向かい少し上るように渡り廊下が架けられていたことがわかります。でも、なぜ斜めに架けられたのでしょうか。これも不思議ですね。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー
はこちらから▼

